

帝京短期大学 ライフケア学科 柔道整復専攻 ご入学の皆様へ

柔道整復コース合格おめでとうございます。

皆さんは将来、柔道整復師として活躍することを目標として受験されたことと思います。

柔道整復師は医療職であり、専門的知識と技術を備えた医療従事者です。そのスタートの第一歩として下記のような課題を考えましたので記入の上、ご提出ください。

入学後は皆さんと有意義な短大生活が送れますように、私ども教員一同ともに学習していきたいと思っています。

希望に満ちた皆さんに、お目にかかれます日を楽しみにしています。

帝京短期大学 柔道整復専攻
柔道整復コース 教員一同

記

課 題

- 1) 柔道整復の専門用語の意味を調べる
- 2) 骨の絵を描いて、名称を調べる
- 3) 細胞の構造を調べる
- 4) 柔道整復学総論で学ぶ用語を予習し、読み方を確認、意味を理解する

課題 1・2・3 の提出期限： 2026 年 3 月 31 日(火)までに郵送で提出してください。

提出先：〒151-0071 東京都渋谷区本町 6-31-1 帝京短期大学 入試広報課 宛

留意点

1. 課題 1, 2, 3 については、参考書やインターネット等の利用を許可いたします（丸写しはしないように）。ただし、参考にした本の著者名・題名・出版年、インターネットの場合はサイト名と URL を余白（もしくは裏面）に記入してください。

例) 本の場合 → 長島聖司訳『分冊解剖学アトラス I』2002 年

インターネットの場合 → 骨折ネット <http://www.fracture-net.jp/>

2. 鉛筆またはシャープペンシルを使用して記入してください。
3. 上から課題 1, 2, 3 の順番に重ねて、左上をホチキス止めしてください。
4. **課題 4 は提出不要**です。入学後に用語の試験を実施いたします。各自予習を行ってください。

以上

【ライフケア学科 柔道整復専攻 入学前課題 1】

氏名 _____

下記の語句の意味を調べて、カッコ内に記しなさい。

1 骨折

[]
---	--	---

2 脱臼

[]
---	--	---

3 捻挫

[]
---	--	---

4 骨端線

[]
---	--	---

5 合併症

[]
---	--	---

6 RICE処置

[]
---	--	---

7 梨状筋症候群

[]
---	--	---

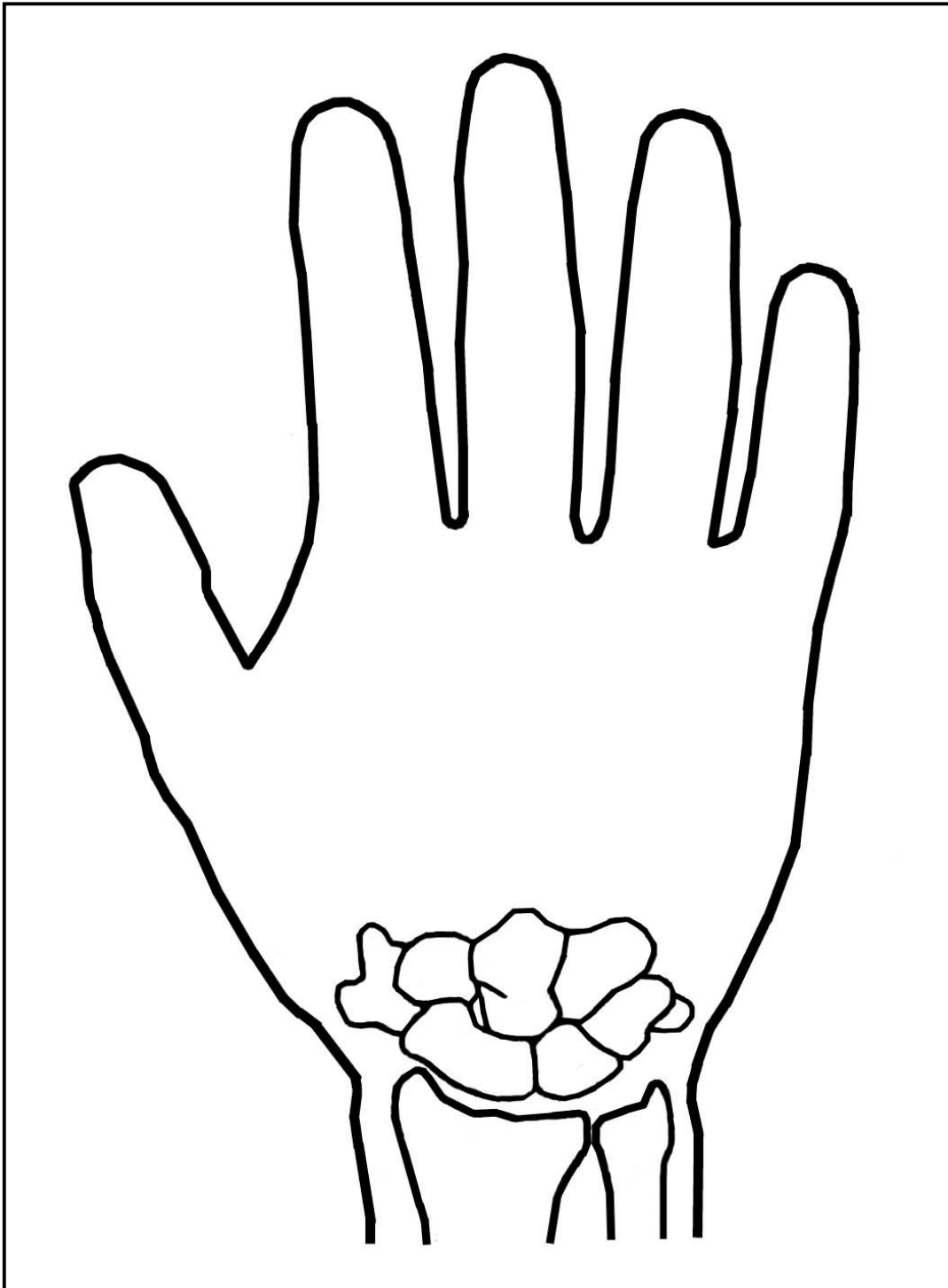
8 オスグッド・シュラッター病

[]
---	--	---

【ライフケア学科 柔道整復専攻 入学前課題 2】

氏名 _____

課題 下の図は人の右手を手背から見た図です。書いてある骨以外の骨を下記に書き込みなさい。
また、図中の骨の名称を書き込みなさい(すでに書いてある骨も含む)。



【ライフケア学科 柔道整復専攻 入学前課題 3】

氏名 _____

- 課題 1. 細胞の構造を記した図を探して、下の枠内に模写しなさい(図や写真の貼り付けは不可)。
2. 以下に記した細胞内小器官の働きを調べてまとめなさい。

①パソコン可／A4用紙／横書き／文字数自由

②この紙を一番上にして重ね、左上をホチキス止めすること。

①細胞膜 、②ミトコンドリア 、③小胞体 、④リボソーム 、⑤ゴルジ装置
⑥リソソーム 、⑦中心小体 、⑧細胞骨格 、⑨核

<細胞の構造>

解剖学用語
方向と位置を示す用語

No.	漢字	読み	意味
1	垂直	すいちよく	地平線と直角な方向。
3	矢状	しじょう	正面から身体を矢が射抜く方向, その方向を合む面である矢状面がよく使われる. 矢状面は多数ある。
4	正中	せいちゅう	身体を左右に分けるまん中のこと. 無数の矢状面のうち, まん中の一つを正中面とよぶ。
5	前頭 (冠状)	ぜんとう (かんじょう)	前頭 (額) や冠状縫合に平行な方向, すなわち矢状面と直交する方向をさす。
6	内側 と 外側	ないそく と がいそく	正中により近い位置を内側, 遠い位置を外側とよぶ。
7	浅 と 深	せん と しん	体表により近い位置を“浅”, 遠い位置を“深”という。
8	前(腹側)と後(背側)	ぜん (ふくそく) と こう (はいそく)	人体の前面(腹のほう)と後面(背のほう)動物と比較する場合は, 腹側と背側を用いる。
9	上(頭方)と下(尾方)	じょう (とうほう) と か (びほう)	直立位における頭と足の方向・位置である. 動物と比較する場合は, 頭方と尾方を用いる。
10	近位と遠位	きんい と えんい	体肢で身体の中心に近い位置を近位, 遠い位置を遠位とよぶ。

関節の運動を示す用語

No.	漢字	読み	意味
11	屈曲と伸展	くつきよく と しんでん	屈曲は関節の作る角度を小さくするような運動であり, 伸展はその逆に角度を大きくする運動である. たとえば, 肘関節の屈曲とは肘を曲げることであり, 膝関節の伸展とは膝を伸ばすことである。
12	外転と内転	がいてん と ないてん	外転は体肢を体幹から遠ざける運動であり, 逆に近づける運動を内転という. 例えば, 上・下肢を外側(横)にあげる運動(側方挙上)が外転であり, おろす運動が内転である. また, 指では手の指の場合は中指(第3指), 足の指の場合は第2指が中心となり, 他の指がこれに近づくとき内転, 遠ざかるときは外転という。
13	回外と回内	かいがい と かいない	前腕の運動にみられる. すなわち, 上肢を下垂して手掌が前方に向いた状態を回外といい (肘関節屈曲位では手掌は上を向く), 回内は上肢を下垂したとき手背が前方を向く (肘関節屈曲位では手背が上を向く)運動である。
14	外旋と内旋	がいせん と ないせん	上腕, 大腿にみられる運動である, すなわち, 上腕, 大腿の前面が外側に回転する運動が外旋であり, 内旋は上腕, 大腿の前面が内側に回転する運動である。
15	外反 (外がえし) 内反 (内がえし)	がいはん (そとがえし) ないはん (うちがえし)	足首の関節に見られる運動である. 例えば, 一方の足の足底を他方の足に向けた場合, 内反という. その逆が外反である。
16	挙上と下制	きょじょう と かせい	挙上は引きあげる運動, 下制は引きさげる運動を指す。

柔道整復学用語

No.	漢字	読み	意味
17	圧痛	あつつう	体の特定の場所を圧迫することで痛みを感じる状態。
18	軋轢音	あつれきおん	骨折の端が触れ合って発生する音。
19	罨法	あんぼう	疼痛・炎症・充血などを除去のために、水、湯、薬などで患部を温めたり冷やしたりする治療法。乾性と湿性、温熱と冷却との組み合わせによる刺激を患部あるいは全身に与え、循環系及び神経系に影響を及ぼし、これによって患部の好転と自覚症状の軽減を図ることを目的とする治療法。
20	咳嗽痛	がいそうつう	「咳嗽」は医療用語で「咳（せき）」を指す。 咳による痛みを咳嗽痛とよぶ。
21	介達外力	かいたつがいりよく	体に加わる力が加わったところから離れた別のところに、力が間接的に伝わることによって発生する外力のこと。
22	海綿質	かいめんしつ	海綿状を呈し、間を脂肪組織や骨髄が満たしている。小児の一次骨核、二次骨核、成人の骨端、扁平骨、短骨などに存在し、骨折部に形成された新しい仮骨、病的新生骨などにもみられる。
23	仮骨	かこつ	骨折や骨の欠損が起きた際に、治療の過程で一時的に形成される新しい骨組織のこと。真の骨組織とは異なり構造が不規則で骨梁も粗く石灰塩も少ない。
24	荷重	かじゅう	外部から物体に作用する力の総称。
25	滑膜	かつまく	骨と骨が形成する関節をおおう関節包の内層にある膜、滑膜からは関節の栄養となる滑液が分泌される。
26	巻軸帯	かんじくたい	包帯のこと。
27	干渉波	かんしょうは	二組の導子で異なる2種類の電流を交差させ電流を干渉させて行う電気療法のこと。
28	患部	かんぶ	病気や傷のある部分。
29	偽関節	ぎかんせつ	骨折部の骨癒合機序が完全に停止したもの。骨折端の髄腔は閉鎖され、両骨折端が隔離して硬化する。一般的に6ヵ月以上経過して異常可動性がある場合は偽関節とみなされる。
30	仰臥位	ぎょうがい	仰向けに寝た姿勢。
31	強直	きょうちよく	関節の構成体である骨、軟骨に原因があって、構成骨や関節面が癒着して可動域が制限されたもの。
32	輕擦法	けいさっぽう	術者の手掌を患部に密着させ遠位から近位に向かって平らに撫で擦する方法。これにより皮膚に機械的刺激を与え、感覚神経を興奮させ、皮下の血管には血液が充満する。すなわち皮膚の栄養を増進させ、疼痛を寛解する。また静脈、リンパ系にも作用する。治療終了の際に用いられる主要な手技。
33	牽引	けんいん	機器や手で患者の体の一部を引っ張り、骨折の整復や関節への負担軽減、神経の圧迫緩和などを目的とするもの。
34	腱鞘炎	けんしょうえん	指や手首の腱が腱鞘とこすれて炎症を起こし、痛みや腫れが生じるもの。
35	硬結	こうけつ	炎症、うっ血、充血などにより、本来柔らかい組織が硬くなる状態。
36	嚙合骨折	ごうごうこっせつ	骨が圧迫によって押し潰されるもので骨折端が相互に噛み合うこと。
37	叩打痛	こうだつう	患部への直接的な刺激ではなく、離れた部位を刺激したとき患部に生じる介達痛のひとつで、例えば、大腿骨頸部骨折で足底から下肢の長軸に向かって叩打すると股関節部に現れる痛みのこと。
38	後療法	こうりょうほう	損傷組織を回復させるために、施す治療法。手技療法、運動療法、物理療法の3者の生体反応を相乗的に作用させて早期に社会復帰させる手法。
39	骨化性筋炎	こつかせいきんえん	筋組織の骨化現象であり、外傷性骨化性筋炎は筋組織内、骨膜外などに貯留した血液で血腫が形成され、吸収されずに骨化することで起こる。
40	骨粗鬆症	こつそしょうしょう	骨吸収能が骨形成能を上回っている不均衡状態のこと。閉経後及び高齢者の骨粗鬆症は骨形成能、骨吸収能ともに低下し、椎体の骨梁が少なくなり脆弱化して骨損傷を起こす。

No.	漢字	読み	意味
41	骨膜	こつまく	骨の表面を包む結合組織の膜で、関節面には存在しない。骨膜は血管、神経に富み、骨の発生、成長、再生、感覚に参与する。
42	自家矯正	じかきょうせい	骨折後や骨の病変後に残ったある種の変形がある程度、骨モデリングによって矯正されるもので骨の成長と同時に骨端軟骨（骨端成長軟骨板）働きが期待できる小児は自家矯正能が高い。
43	弛緩	しかん	緊張が緩んでゆるんだり、たるんだりする状態。筋肉の力が抜けて緊張が低下している状態。
44	軸圧痛	じくあつう	患部への直接的な刺激ではなく、離れた部位を刺激したとき患部に生じる介達痛のひとつで、例えば、下腿骨骨幹部骨折で足底から下肢の長軸に向かって加えた圧で骨折部に現れる疼痛である。
45	疾患	しかん	病気そのもの。何らかの要因で加わった外力によって生じた骨、関節、筋肉、靱帯、神経などの各組織損傷による機能異常、機能障害、疼痛、炎症状態にある身体部位の故障をいう。
46	湿布	しっふ	薬効成分を塗布した布を皮膚に貼ることで、炎症を鎮めたり痛みを和らげたりする外用剤。
47	疾病	しっぺい	外傷ではない、身体の生理的機能の異常や心身の不調を指し、医学的診断基準に基づいて分類され、医療の対象となる病態のこと。
48	柔道整復師	じゅうどうせいふくし	脱臼、骨折、打撲、捻挫等に対してその回復を図る施術を業として行うもの。
49	揉捏法	じゅうねつほう	母指と四指の掌面および手掌との間に患者の筋をつかみ、圧搾するような動作を繰り返し、遠位から近位方向へ進んでいく方法である。主として筋に作用させるものであるが、もちろん皮膚組織にも影響を及ぼすものである。筋組織を絞って、その中にある病的産物を粉碎し、これをリンパ系に送り出し血液の循環を促して新しい血液を局所に送り込む。
50	手技療法	しゅぎりょうほう	柔道整復後療法の根幹をなすもので、術者の手を用いて患者の身体に種々の機械的刺激を与え、生体の持つ自然治癒力を活性化させ、損傷の早期回復を図ろうとするものである。
51	手掌	しゅしょう	手のひらのこと。
52	腫脹	しゅちょう	腫れ。炎症、外傷、細胞増殖などが原因で、組織や臓器の一部が膨らむこと。
53	触診	しょくしん	患者の手や指で身体の表面を触れて、腫れ、しこり、温度、硬さ、痛み、筋、腱、骨、関節の性状、などを調べて評価を行う検査方法。
54	褥瘡	じょくそう	床ずれ。寝たきりなどで体重によって皮膚が圧迫され続けることで血流が悪くなり、皮膚や皮下組織が傷ついたり壊死したりする状態のこと。
55	靱帯	じんたい	関節にある骨と骨を互いに結ぶ線維性の結合組織。関節包を強化し、2骨間の結合を強め、あるいは一定方向の運動を指示し、それ以外の方向への運動を抑制する働きがある。
56	施術	せじゅつ	柔道整復師などの専門家が、技術や知識に基づいて人や物に対して行う行為。
57	遷延治癒	せんえんちゆ	骨折の癒合が通常より遅れているもの。治癒過程は停止していない状態。
58	剪断力	せんだんりょく	ハサミで物を切るように、二つの力が平行で反対方向に密接して働いたときに発生する力。
59	側臥位	そくがい	体を横向きにして寝ている姿勢。
60	足底	そくてい	足の裏の部分。
61	足背	そくはい	足の甲の部分。

No.	漢字	読み	意味
62	阻血性拘縮	そけつせいこうしゆく	受傷時の外力や骨折端の転位による血管の圧迫、挫減、断裂などで持続的な動脈性血行障害によって引き起こされる手足の筋肉の永久的な変性・硬化・短縮。
63	足根	そっこん	踵から足首部分を形成する部位。
64	体幹	たいかん	頭部・四肢（手足）を除いた胴体部分。
65	体肢	たいし	上肢と下肢。
66	大腿	だいたい	太もものこと。
67	打撲	だぼく	転倒や衝突などで体の特定の部位に強い衝撃が加わり、筋肉や血管、皮下組織などが損傷すること。
68	竹節状骨折	ちくせつじょうこっせつ	長軸方向の圧迫によって骨の一部が押しつぶされ骨折部が輪状に隆起して竹節状になったもの。
69	緻密質	ちみつしつ	長骨外殻の横断面にある、肉眼的にはまったく間隙がみえない厚みのある管状の硬い骨。
70	治癒	ちゆ	治ること。
71	直達外力	ちよくたつがいりよく	体に加わる力が直接的に作用する力のこと。
72	陳旧性	ちんきゅうせい	時間が経過して活動していない、古い状態や痕跡を指す。陳旧性骨折、陳旧性脱臼などと使われる。
73	低周波	ていしゅうは	周波数1kHz未満の電気刺激波形を用いて患部の組織や神経を刺激する電気刺激療法。
74	疼痛	とうつう	痛みのこと。
75	徒手筋力検査	としゅきんりよくけんさ	検査者の手で被験者の筋肉に抵抗を加え、その筋力の低下の程度を0～5の6段階で評価する方法。
76	軟部組織	なんぶそしき	骨などの硬組織を除く、体内の柔らかい組織のこと。具体的には、筋肉、脂肪、皮膚、血管、神経、腱、靱帯、筋膜など。
77	肉芽組織	にくげ（が）そしき	外傷などで傷ついた組織の修復過程で形成される、毛細血管と線維芽細胞、炎症性細胞、膠原繊維などに富んだ若い結合組織。
78	捻挫	ねんざ	原因が明らかなもので骨と骨の間に起こる急激な捻れ。あるいは激しい外力により発生した関節周辺の関節包や靱帯組織の損傷。
79	剥離骨折	はくりこっせつ	骨の衝突・摩擦により骨の一部が剥がされて発生する骨折のこと。
80	瘢痕組織	はんこんそしき	ケガなどで失われた組織を修復する過程で作られる線維性の組織のこと。肉芽組織を経て形成される緻密で硬い結合組織で、コラーゲン線維が豊富で硬く、伸びにくい特性を持つため、時に引きつれ（瘢痕拘縮）や盛り上がり（肥厚性瘢痕、ケロイド）を引き起こすことがある。
81	絆創膏	ばんそうこう	布、あるいは紙に粘着性物質を塗布させたもので、伸縮性と非伸縮性がある。
82	負荷	ふか	になうこと。かつぐこと。身体にかかる負担や仕事量のこと。
83	腹臥位	ふくがい	うつ伏せに寝た姿勢。
84	浮腫	ふしゅ	細胞外液（組織液やリンパ液）が組織や臓器に貯留し腫脹した状態。いわゆる「むくみ」で指で圧迫すると持続する陥凹ができることから浮腫の存在を知ることができる。
85	無腐性骨壊死	むふせいこつえし	骨折に伴う骨片の壊死は、血管の損傷で血液供給が遮断され起こる。血管分布の状態により壊死を起こしやすい骨折がある（大腿骨頸部骨折、手の舟状骨骨折、距骨骨折など）。
86	免荷	めんか	骨折や手術後の患部に体重をかけないようにする処置のこと。
87	良肢位	りょうしい	（機能的肢位）関節が動かなくなった状態でも、日常生活動作に支障がない肢位、また拘縮の予防、身体の安楽な状態を保つ肢位。
88	彎曲	わんきよく	弓形に曲がること。人間の脊椎が持つ正常な彎曲を「生理的彎曲」といい頸椎と腰椎は前彎、胸椎は後彎している。